

Smart Wellness City,
Smart Welcoming City

基本計画

基本目標④

観幸



第4章 | 自然と歴史と文化が織りなす
「観幸のまち やわた」

I 第1節 シビックプライドの醸成

- **めざす姿** 市民が八幡市の自然や歴史、文化芸術に触れる機会を通じて、生活が豊かになるとともに、まちへの愛着と誇りが高まっています。

施策体系と主な取組

①文化芸術活動の振興

- 市民が文化芸術に接し交流する機会の拡充
- 市民による文化芸術活動の促進
- 文化財の保存及び活用

②お茶のある幸せの風景の創出

- お茶に親しむ機会の創出
- 茶文化の発信

③豊かな自然・歴史との触れ合い

- 自然と触れ合うきっかけづくり
- 自然景観の保全
- 歴史景観の保全

I 第2節 幸せと出逢う観光まちづくり

- **めざす姿** 多くの人々が八幡市を訪れ、その豊かな自然と歴史・文化芸術に出逢い、幸せを感じられる環境が整っています。

施策体系と主な取組

①「観幸のまち やわた」のブランド構築

- ブランドの構築
- プロモーションの推進
- 観光まちづくりを進める体制づくり

②自然と歴史と文化が織りなす「出逢いの物語」観光の推進

- 石清水八幡宮を活かした交流拠点づくり
- 資源を活かした周遊・体験・滞在型の広域観光の推進
- おもてなし環境の整備

指標名	現状	目標値	
		2022年	2027年
文化センター利用者数	155,720人	160,000人	165,000人
お茶学習参加者数	32人	60人	100人
松花堂庭園茶室利用者数	2,753人 (H26~28平均)	3,000人	3,500人
収穫体験参加者数	293人	300人	320人
わがまち・八幡への愛着や誇りを感じる市民の割合	49.9%	55.0%	60.0%

指標名	現状	目標値	
		2022年	2027年
商品開発数	1商品	2商品	3商品
プロモーション(商談会)参加件数	5件	7件	9件
観光情報ハウス*への外国人来訪者数	754人	1,000人	1,200人
観光入込客数	2,065,319人	2,580,000人	2,610,000人
観光消費額	631,183千円	668,000千円	675,000千円
ボランティアガイド人数	59人	65人	70人

第4章

自然と歴史と文化が織りなす 「観幸のまち やわた」

第1節 シビックプライドの醸成

めざす姿

市民が八幡市の自然や歴史、文化芸術に触れる機会を通じて、生活が豊かになるとともに、まちへの愛着と誇りが高まっています。

施策体系

シビックプライド の醸成

- ①文化芸術活動の振興
- ②お茶のある幸せの風景の創出
- ③豊かな自然・歴史との触れ合い

施策の背景

本市には、脈々と引き継がれてきた豊かな自然や歴史、風景、文化芸術等の魅力があります。市民がこれらに触れることを通じて生活が豊かになり、市民のまちへの愛着や誇りである「シビックプライド」が高まっていくという観点を大事にしながら、市民自らがそれらの魅力を維持し、高めていくことが求められます。

そのためにも、市民や行政をはじめ多様な主体が協働・連携しながら、豊かな歴史文化を保存継承し、文化芸術活動を振興していくことが必要となります。特に、松花堂昭乗*などの文化人により発信されてきた「茶文化」が、市民及び来訪者に親しまれるような環境を整えながら、市民の中に「おもてなしの心」を育むことが大切です。そして、様々な人と人との出逢いを通じて、本市の自然や歴史、文化芸術等が、国内外の多くの来訪者を魅了し尊敬を集めるようになることで、「シビックプライド」をさらに高めていけるようにしていく必要があります。

1 文化芸術活動の振興

現状と課題

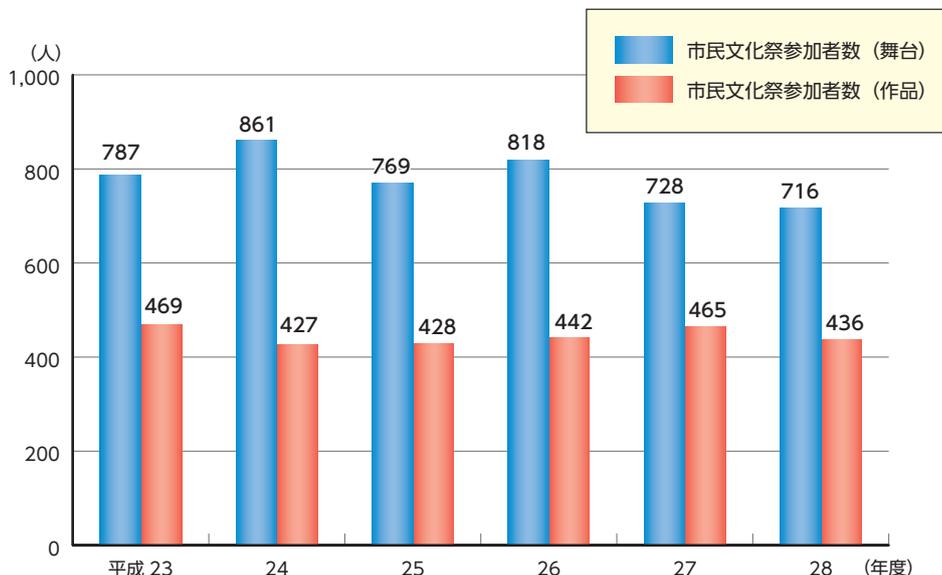
市では、「八幡市文化芸術振興条例（平成17年）」の制定や文化芸術活動の拠点である八幡市文化センター及び松花堂庭園・美術館の設置・運営を通して、市民が文化芸術に触れる機会の創出を進めており、毎年一定の利用状況を維持しています。また、市民文化祭の開催や市文化協会の活動等により、市民の文化活動への参加機会の確保と文化活動を通じた交流の促進を図るとともに、友好都市であるマイラン村*や宝鷄市*との国際交流についても取り組んできました。2017（平成29）年には「八幡市・エジソン生家博物館 連携に関する宣言書*」への調印を行い、「エジソン」を通じた国内外における市民間交流の機運も高まっています。

さらに、本市では、太鼓まつりやずいきみこしなどの文化活動・伝統行事が行われ、また国宝石清水八幡宮本社、名勝松花堂及び書院庭園をはじめとする指定文化財*や西車塚古墳など様々な遺跡が存在し、市民の地域への愛着や誇りにつながっています。

今後も市文化センター、松花堂庭園・美術館等のさらなる利活用を進めながら、多世代の参加・参画、交流機会の拡充、次代の文化芸術振興を担う人材育成を図るとともに、市内文化財の適切な保存と活用についても引き続き取り組む必要があります。さらには、「エジソン」や「二宮忠八*」に象徴される本市の特徴的な歴史や文化芸術を通じた国内外における交流の充実に取り組んでいくことも必要です。

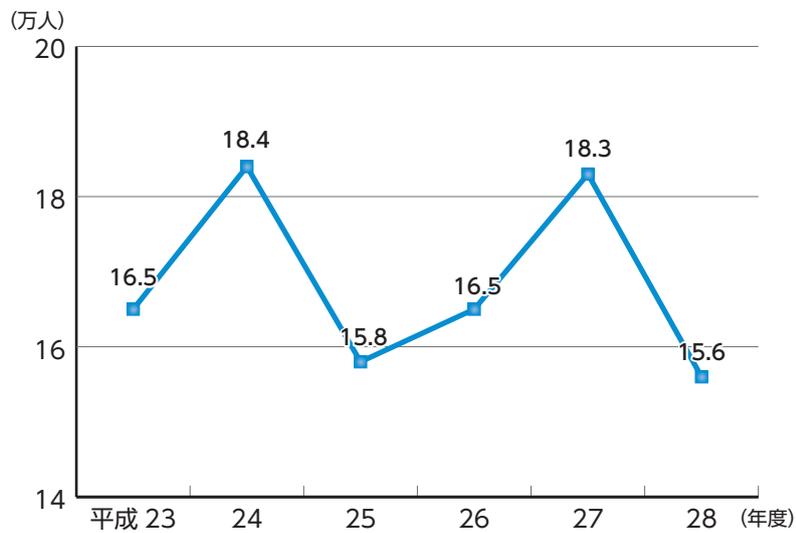
（関連情報・データ等）

市民文化祭参加者数



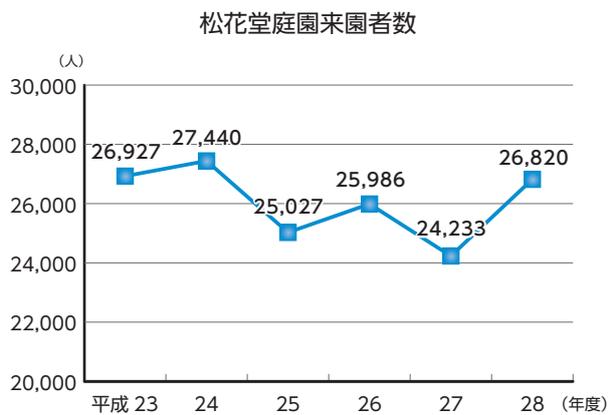
（資料）八幡市

文化センター利用者数



(資料) 八幡市

松花堂庭園・美術館入館者の推移



(資料) 八幡市



文化財指定件数 (平成28年度末現在)

	美術工芸							史跡	名勝	天然 記念物	無形 文化財	建造物 総数
	総数	絵画	彫刻	工芸品	書跡	古文書	考古					
国指定文化財*	19	2	10	1	4	2	—	2	1	—	—	5
国登録文化財*	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3
府指定文化財*	7	—	2	2	1	2	—	1	1	1	—	5
府登録文化財*	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	2
市指定文化財*	17	5	10	—	—	1	1	—	—	—	—	—

(資料) 八幡市

主な取組と方向性

● 市民が文化芸術に接し交流する機会の拡充

- ▶ 幅広い年代層が歴史や文化芸術に触れる機会を創出するため、市民ニーズに応じた事業の展開に努めます。
- ▶ 「徒然草」をはじめ、国宝石清水八幡宮に所縁のある歴史文化に市民及び来訪者が接する機会の拡充を図ります。
- ▶ 文化芸術活動の推進・指導を担う人材の育成を図ります。
- ▶ 市文化センターや松花堂庭園・美術館を中心に、文化芸術を通じた交流を促進します。
- ▶ 山城地域の文化交流イベントを継続し国際交流の機会創出に努めます。

● 市民による文化芸術活動の促進

- ▶ 地域の祭礼や伝統行事を含め、市民が主体的に行う様々な文化芸術活動の振興を促進します。
- ▶ 「エジソン」や「二宮忠八*」をはじめとする本市の歴史文化を通じた、国内外における市民間交流を促進します。

● 文化財の保存及び活用

- ▶ 国宝石清水八幡宮本社をはじめとする市内文化財の保存・整備とさらなる活用を進めます。
- ▶ 将来にわたって文化財を守り伝えるため、ふるさと学習館への来館促進を図るとともに、地域や学校等を通じて啓発に努めます。
- ▶ 地域の文化財を後世に伝えるための基盤づくりとして、継続的に文化財の調査を行います。
- ▶ 市内遺跡の発掘を通じて地域の歴史的な特徴を把握し、文化財の活用に応じます。
- ▶ 地域の歴史に関する資料の収集や蓄積を図り、地域の歴史像の復元に努めます。

施策の進捗をはかる指標

指標名	現状	目標値	
		2022年	2027年
文化センター利用者数	155,720人	160,000人	165,000人

2 お茶のある幸せの風景の創出

現状と課題

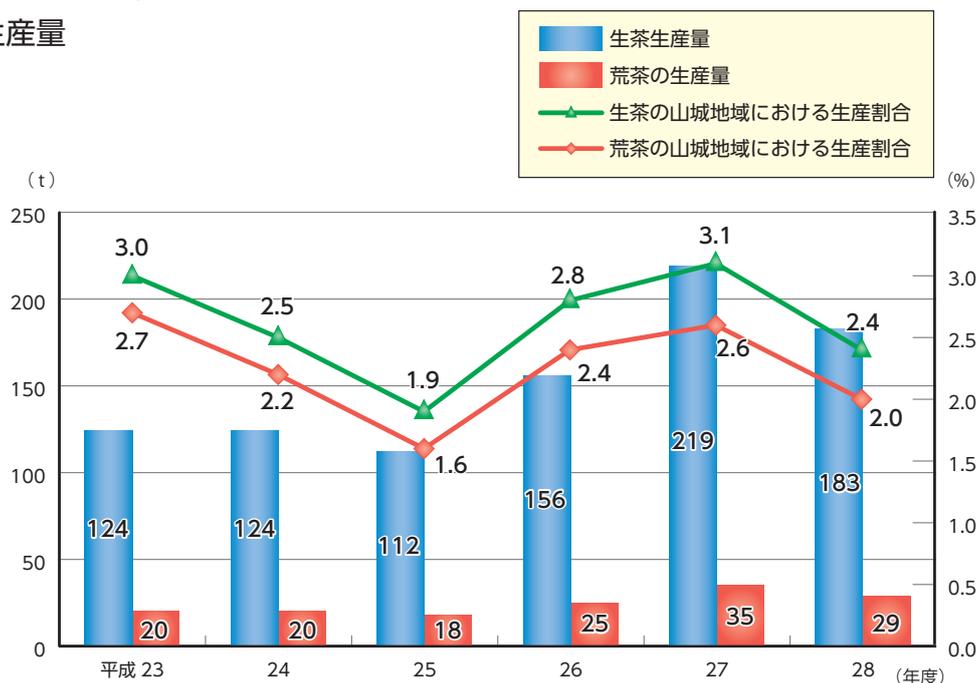
本市では、松花堂昭乗*などの文化人により茶の湯の文化が発信されてきたという歴史があります。そのような本市において、2015（平成27）年度には「流れ橋周辺に広がる浜茶の景観」が日本遺産「日本茶800年の歴史散歩」*に認定されており、日本茶のふるさとの魅力がさらに多くの人に認知されることが期待できます。また、抹茶の原料となる「てん茶*」の茶葉生産量も近年増加傾向にあり、本市の高品質なてん茶*に触れる機会が増加することで、「お茶」を通じた本市のブランドイメージの向上や市民の愛着醸成につながることを期待されます。

「茶文化」とは、まさに「おもてなしの心」であり、人と人の心の触れ合いの媒体としての「お茶」が文化として発展してきたものです。2017（平成29）年度は「お茶の京都」ターゲットイヤーとして、京都府・京都南部11市町村と連携し、「お茶の京都博」を中心とした茶産業の振興・発展を促すとともに、文化・景観の保持・継承のための情報発信を行ったところであり、本市としても、「茶文化」によるブランド構築や観光振興の機運はますます高まっています。

このような機運の高まりを活かし、「八幡の茶文化」が子どもたちや多くの市民に愛されるとともに、国内外からの来訪者と市民が八幡の一杯のお茶を通じて出逢い、触れ合えるような「お茶のある幸せの風景」を創っていくことが望まれます。

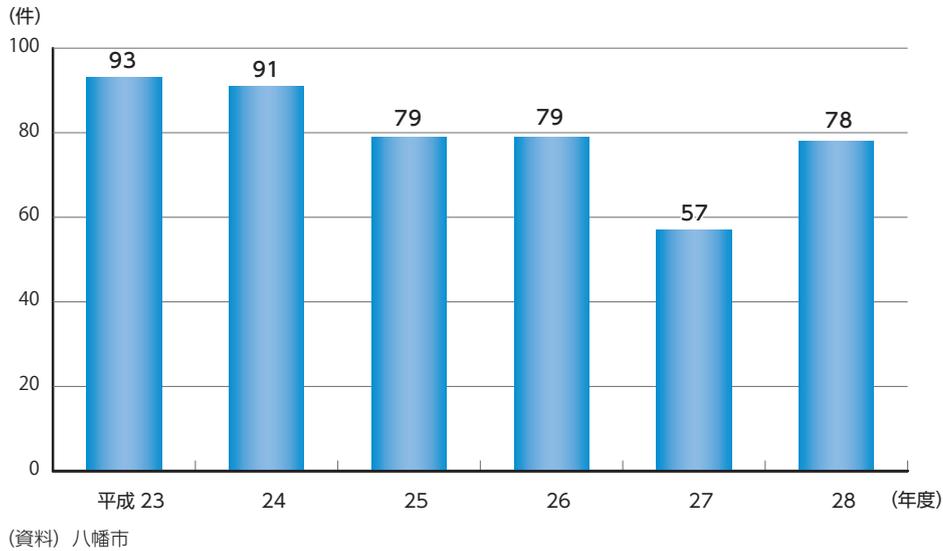
（関連情報・データ等）

お茶の生産量



（資料）八幡市

松花堂茶室の利用件数



主な取組と方向性

● お茶に親しむ機会の創出

- ▶ 茶文化体験をはじめ、子どもや高齢者、障がい者など多様な人々がお茶に親しめる機会の提供を、生産団体・学校等の関係団体や地域との連携により進めます。
- ▶ 本物志向・知的好奇心のある観光客を誘致するため、付加価値の高い茶会の開催を促進します。
- ▶ 市民や観光客が「八幡のお茶」を理解し、興味を持つことができるよう、八幡市産てん茶*を使用した茶会・茶香服*など気軽に茶文化を体験できるイベント等の実施を進めます。

● 茶文化の発信

- ▶ 本物志向で好奇心旺盛な観光客の満足度に応えるため、石清水八幡宮とつながる様々な茶文化等の地域資源と芸術等とのコラボレーションによる特徴的なイベントの開催により、新たな出逢いの創出を進めます。
- ▶ 松花堂庭園を活用した茶事体験やイベント等を通じ、若い世代を含め多くの市民と海外の観光客との国際交流を促進します。
- ▶ 松花堂昭乗*や小堀遠州*ゆかりの茶室で「空中茶室」と呼ばれる「閑雲軒（遺構）」について、八幡の茶文化の発信とともにPRに努め、市民とともに、「新・空中茶室」創造への機運を醸成していきます。
- ▶ 日本遺産*である「流れ橋周辺に広がる浜茶の景観」を活かし、やわた流れ橋交流プラザ「四季彩館」や石清水八幡宮、松花堂庭園茶室を拠点とした茶文化の魅力発信を進めます。

施策の進捗をはかる指標

指標名	現状	目標値	
		2022年	2027年
お茶学習参加者数	32人	60人	100人
松花堂庭園茶室利用者数	2,753人 (H26～28平均)	3,000人	3,500人



松花堂庭園



小学校でのお茶の教室



Chazz in 石清水八幡宮
(お茶の京都博イベント)



新・空中茶室そら
(お茶の京都博・一坪茶室展)

3 豊かな自然・歴史との触れ合い

現状と課題

本市には、1983（昭和58）年3月に「京都府歴史的な環境保全地域」第1号に指定された国指定史跡石清水八幡宮境内を含む男山をはじめ、三川合流域や東部地域の田園風景、美濃山地域の竹林など豊かな自然環境があります。また、「八幡市みどりの条例（平成3年）」に基づき、ふるさとの森、ふるさとの木を指定し、所有者との協定に基づく自然環境の保全に向けた取組を実施してきました。さらに、放生川の^{しゅんせつ}浚渫や除草など親水化の促進を図るとともに、「水と緑のネットワーク」の形成に向けた緑化整備や河川・緑地空間を活用した自転車・歩行者道、休憩施設の整備を、京都府と連携しながら進めてきました。

また、松花堂周辺交流拠点整備における歴史街道整備など、歴史街道計画*に基づく歴史景観の創出にも取り組んできました。

市民が今後も引き続き八幡市の自然に愛着と誇りを持ち続けられるよう、豊かな自然・歴史景観の保全に努めるとともに、自然との触れ合いの機会の拡充を図る必要があります。

（関連情報・データ等）

みどりの約束区域面積・樹木数（平成29年3月末現在）

みどりの約束（区域分）*	96件（796,530.31㎡）
みどりの約束（樹木分）*	23件（27本）

（資料）八幡市

主な取組と方向性

◎ 自然と触れ合うきっかけづくり

- ▶ 自然と触れ合う機会の充実を図るため、自然観察会や収穫体験等の事業を進めます。
- ▶ 市民・来訪者が自然や歴史・文化・観光関連施設等を安全で安心して周遊できるよう、河川・緑地空間・既存道路を利用し、自転車・歩行者道の整備を推進します。
- ▶ 「みどり」を大切にす豊かな心を育むため、みどりのつどい（グリーンカーテン講習会）*を開催します。

◎ 自然景観の保全

- ▶ 「八幡市みどりの条例」に基づき、「みどりの約束」の締結による男山・社寺林の保護育成や「ふるさとの森」「ふるさとの木」の保全を進めるとともに、市民による緑化活動を支援します。

- ▶日本遺産*である「流れ橋周辺に広がる浜茶の景観」の保全を進めます。
- ▶農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮を図るための地域の共同活動に係る支援を行い、地域資源の適切な保全管理を推進します。

● 歴史景観の保全

- ▶石清水八幡宮、東高野街道、松花堂、流れ橋をはじめ市内に点在する歴史景観のさらなる保全を進めます。

施策の進捗をはかる指標

指標名	現状	目標値	
		2022年	2027年
収穫体験参加者数	293人	300人	320人
わがまち・八幡への愛着や誇りを感じる市民の割合	49.9%	55.0%	60.0%



三川合流域と桜



大谷川に親しむ体験活動



園児による茶摘み



小学生によるサツマイモ掘り

Ⅰ 第2節 幸せと出逢う観光まちづくり

● めざす姿

多くの人々が八幡市を訪れ、その豊かな自然と歴史・文化芸術に出逢い、幸せを感じられる環境が整っています。

● 施策体系

幸せと出逢う	①「観幸のまち やわた」のブランド構築
観光まちづくり	②自然と歴史と文化が織りなす「出逢いの物語」観光の推進

● 施策の背景

全国的に外国人観光客が増加傾向にある中、石清水八幡宮本社が国宝に指定されるなど、近年、本市に多くの観光客が訪れる上での好条件がそろいつつあります。

しかしながら、市では、まちづくりの基本方針として「生活都市の充実」を掲げてきたことから、これまでは、観光まちづくりへの関心度が相対的に低いという特徴がありました。

観光まちづくりを進めるためには、市民が観光まちづくりに共感し、後押しをする機運を作っていけるようにするとともに、市民や関係団体の理解を得て、協働しながら、本市が観光客から選ばれる観光地となるようにブランドを構築していくことが求められます。

本市には、石清水八幡宮や松花堂庭園、三川合流域、背割堤、流れ橋、浜茶の景観、エジソン記念碑、茶文化をはじめとする歴史文化など、誇れる観光資源が数多くあります。それらの資源を活用し、「お茶の京都」の広域的なブランドの取組と連携させながら、「本物の体験」や「癒し」、「知的欲求」、「歴史」、「驚き」を楽しみに訪れる人が満足し、八幡での観光で幸せと出逢えるよう、自然と歴史と文化が織りなす様々な出逢いの物語を磨き上げるとともに、「おもてなし環境」の整備に取り組んでいくことが必要です。

また、八幡市のブランドや観光施策を全国的・世界的に認知してもらうためには、これまで以上のプロモーションの工夫と充実が不可欠です。

1 「観幸のまち やわた」のブランド構築 ―

現状と課題

市では、「八幡市駅前整備等観光まちづくり構想（平成29年）」を策定し、八幡市の玄関口にあたる京阪八幡市駅前周辺を含めた観光まちづくりのめざすべき姿に関して、市民や関係団体とともに、ブランド・コンセプトを定めました。

観光まちづくりを進めるためには、市民の理解を得て、多様な主体が協働しながら、ブランド・コンセプトの方向性に沿ったコミュニケーション施策（広告、イベント、販売促進だけでなく、街を訪れる観光客との交流そのもの）を進めていくことが必要です。

観光は、観光資源、交通、飲食、物販、宿泊等の多面的な要素から成る産業であり、横断的に協力・連携を図っていく体制が必要となります。そのためにも、広域的な観光地域づくりの舵取り役となる「お茶の京都DMO*（一般社団法人京都山城地域振興社）」と連携しながら、地場産農産物のPR、商工会等と連携した新たな商品開発、観光協会との事業連携や情報発信の強化と併せ、市民、関係団体、事業者等とともに、付加価値を提供するための体制や場を創出していく必要があります。



石清水八幡宮と男山の森

(関連情報・データ等)

「八幡市駅前整備等観光まちづくり構想」の概要

観光まちづくりのブランド構築

八幡市の玄関口にあたる京阪八幡市駅前周辺を含めた観光まちづくりの「めざすべき姿」について、市民や関係団体とともに、言語化し、観光客から選ばれる観光地になるとともに、市民の観光まちづくりへの共感を得られ、積極的に参画していただける機運を作っていくことを「観光まちづくりのブランド構築」としています。

ブランド・コンセプト

めざすべき姿である「ブランド・ストーリー」から、今後行うすべてのコミュニケーション施策(広告、イベント、販売促進だけでなく、街を訪れる観光客との交流そのもの)の方向性を決めるため、本質を抽出した概念のことであります。

茶文化薫る はちまんさんの門前町

～神と仏、三つの川、人と人が出会うまち～

ブランド・ストーリー

「背割堤の桜」で多くの観光客で賑わう三川合流部から望む男山は、静かな鎮守の森に覆われ、あたかも仏の涅槃(ねはん)像のような姿に見える。国宝石清水八幡宮は、平安時代に京都の裏鬼門を守るためにこの地に開かれ、現在もわが国の古くからの信仰の姿であり、日本文化の源流ともいえる「神仏習合*」の精神を引き継ぐ社として篤い崇敬を受けるとともに、市民からは親しみを込めて「やわたのはちまんさん」と呼ばれてきた。

そのふもとでは、千年以上の長きにわたり、聖と俗が溶け込む門前の町として繁栄するとともに、寛永の三筆と称された松花堂昭乗*など文化人により、茶の湯の文化が発信されてきた。昭乗と小堀遠州*が、男山山中に「懸け造り」の手法で、世界のどこにもない宙に浮かんでいるような茶室、まさに「空中茶室」を作ったのも、そのひとつの表れである。このように、三川合流、石清水八幡宮、松花堂昭乗*、「流れ橋」と浜茶の景観など、数多くの歴史的・文化的資源や景勝地を有するとともに、ライト兄弟に先駆けて飛行機づくりに取り組んだ二宮忠八*、八幡の竹を使って世界に光を与えたエジソン、そして松花堂并当の誕生など、千年におよぶ歴史の継承をこえて、世界から多くの人を惹きつける物語を創り出してきた地域でもある。

京都市を訪れる歴史文化に関心のある国内外の本物志向の旅行者に、もう少し足を伸ばしてもらえれば、まだまだ知られていない千年の歴史に裏打ちされた奥深く神秘的な日本の文化や物語に出会い、知的好奇心を満たす旅を提供できるのではないだろうか。

寺社巡礼は日本における観光の原点と言えるものである。門前町とはまさしくこうした観光の賑わいで形成されたまちであり、八幡というまちの成り立ちそのものであったことに今一度、思いをはせたい。「神仏習合*」の精神など、歴史的・文化的な価値を深く知り、この土地の記憶を未来に繋げ、単に参拝し、お土産を買い、飲食ができるだけでなく、モノよりコト、形より本質を追求しながら、若い世代の新たなチャレンジを可能にする活力ある門前町をめざしていくべきだと考える。

そして、私たちの街に受け継がれてきた「茶文化」の神髄は、まさに「おもてなしの心」であって、人と人の心の触れ合いの媒介として「お茶」があり、それが文化として発展してきたものである。一服のお茶によって人々の心が潤い、人と人が出会い、心が触れ合えるような、お茶のある幸せの風景を創っていきたく考える。

駅前の賑わいを創出する取組を核としながら、駅前から石清水八幡宮へ通じる参道、松花堂庭園に続く東高野街道へ誘導するため、アイデアあふれる新しい取組の他、本格的なお茶だけでなく、気軽にお茶を楽しめるカフェなど、お茶に親しむ人々を増やすとともに、茶文化のおもてなしによる新たな交流が生まれる門前の町を街中へ広げていきたい。

このように、市民が崇敬し親しみを抱く石清水八幡宮を中心とするまちづくりと、おもてなしの精神と「出会い」をもたらす茶文化の市民によるムーブメントが、三川が集まる豊かな自然の中で融合することで、国内外の多くの人々を魅了して尊敬を集め、ひいては市民の誇り(シビックプライド)の高まりへとつながっていくことを期待するものである。

※構想本文から表現を一部修正しています

主な取組と方向性

● ブランドの構築

- ▶ 観光客から選ばれる観光地となるため、市民の観光まちづくり意識の醸成や観光客の本物志向・知的好奇心を満たす付加価値の創出を図ります。
- ▶ 「八幡市駅前整備等観光まちづくり構想」に基づき、ブランド・コンセプト「茶文化薫るはちまんさんの門前町 一神と仏、三つの川、人と人とが出会うまち」に沿ったPRを進めます。
- ▶ 国宝石清水八幡宮を中心に、本市の魅力のさらなる認知度向上に向け、所縁のある「お茶」や「徒然草」などの特徴的な歴史文化を活かした相乗的かつ効果的な発信を図ります。
- ▶ 地場産農産物の種類・量を充実させ、生産履歴の記帳等により「安心・安全・新鮮」をPRし、販売を促進します。
- ▶ 八幡ブランド商品の開発・普及事業を促進します。

● プロモーションの推進

- ▶ 時代に即した情報発信に向け、SNS*の活用、動画配信等、目的に応じた情報提供方法の研究・検討・活用を推進します。
- ▶ 広域PR紙や広域連携で取り組むパンフレットなど既存の取組を強化します。
- ▶ 観光協会をはじめ、多様な情報発信機能を有する関係機関等との連携を強化し、国内にとどまらず、海外に向けたプロモーションを積極的に行います。

● 観光まちづくりを進める体制づくり

- ▶ 関係機関との連携推進による既存の体制強化を図るとともに、お茶の京都DMO*（一般社団法人京都山城地域振興社）や他市町村等との広域連携を推進します。
- ▶ 市民や事業者など付加価値を提供する主体が、自由に議論と挑戦・検証を重ねながら事業を進められる体制や場の創設を進めるとともに、そこから創造的的事业が創出されるよう促進します。

施策の進捗をはかる指標

指標名	現状	目標値	
		2022年	2027年
商品開発数	1商品	2商品	3商品
プロモーション（商談会）参加件数	5件	7件	9件
観光情報ハウス*への外国人来訪者数	754人	1,000人	1,200人

2 自然と歴史と文化が織りなす「出逢いの物語」観光の推進

現状と課題

本市では、石清水八幡宮本社が2016（平成28）年2月に国宝指定されるなど、観光資源の魅力が増しており、主要観光施設の観光入込客数及び観光消費額は近年増加傾向にあることから、観光に対する機運が高まっています。

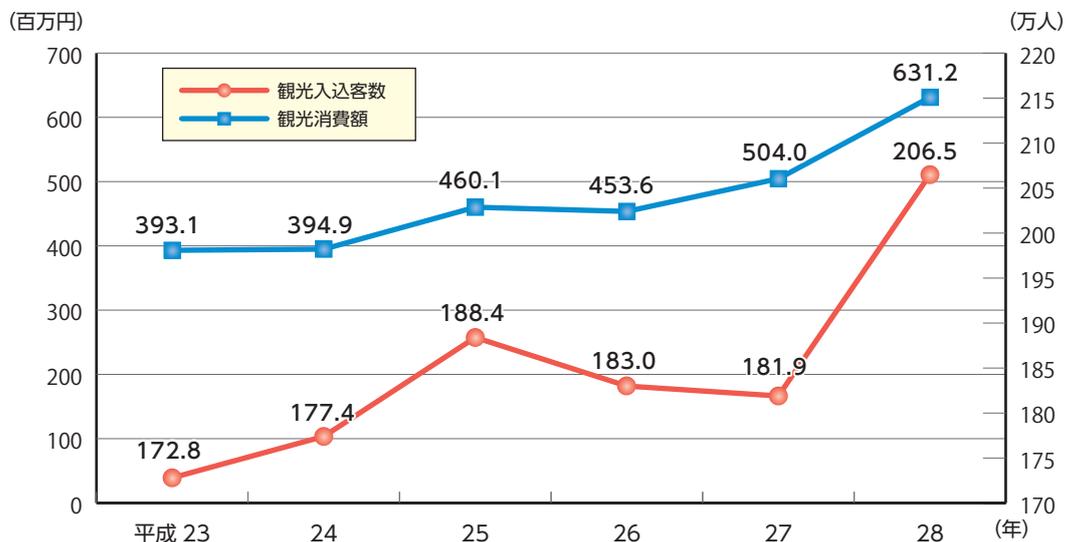
このような機運の高まりを加速化していくためにも、「八幡市観光基本計画」に基づき、観光資源を最大限に活かした取組をさらに進めていくことが必要となります。自然と歴史と文化が織りなす様々な出逢いの物語を磨き上げ、お茶の京都DMO*と連携しながら、「茶文化のもてなし」、「門前町・参道をイメージしたまちづくり」等を有機的に結び付け、観光客の本物志向、知的好奇心を満足させる歴史文化・自然を活かした付加価値のある体験やサービスを提供するとともに、国内外からの観光客がリラックスし、交流し滞在できる「おもてなし環境」を創出していくことが重要となります。



背割堤の桜

（関連情報・データ等）

主要観光施設の観光入込客数及び観光消費額



（資料）八幡市

主な取組と方向性

● 石清水八幡宮を活かした交流拠点づくり

- ▶ 石清水八幡宮の歴史的景観を考慮した京阪八幡市駅周辺の再整備など、交流拠点の整備と歴史文化を活かしたプログラムの開発を進めます。

● 資源を活かした周遊・体験・滞在型の広域観光の推進

- ▶ 市民・NPO・事業者等による観光資源を活かしたイベント、体験プログラムの開発・開催促進など、滞在型の観光施策の充実を促進します。
- ▶ 観光協会や近隣市町など関係機関との連携を強化し、やわた流れ橋交流プラザ「四季彩館」及び日本遺産*である「流れ橋周辺に広がる浜茶の景観」を活かしたイベントの実施、舟運の活性化など、お茶などの文化資源や三川合流域などの景観資源等をつなぐ周遊型の広域観光を進めます。

● おもてなし環境の整備

- ▶ 石清水八幡宮を中心に社寺等のネットワークの形成を図り、新たな観光資源の掘り起こしを進めます。
- ▶ 交流拠点化に向けたハード整備を促進するとともに、ソフト対策を推進します。
- ▶ 関係機関と連携し、石清水八幡宮等へのアクセス向上に向けた案内標識等の整備を進めるとともに、案内看板等の多言語化及び統一基準の策定を検討します。
- ▶ ボランティアガイドや観光事業者等の活動を支援し、人材育成を進めます。
- ▶ 民泊新法（住宅宿泊事業法）*に対応するための情報把握や研究を進めます。

施策の進捗をはかる指標

指標名	現状	目標値	
		2022年	2027年
観光入込客数	2,065,319人	2,580,000人	2,610,000人
観光消費額	631,183千円	668,000千円	675,000千円
ボランティアガイド人数	59人	65人	70人



国宝 石清水八幡宮本社



男山ケーブル



エジソン記念碑



さくらであい館



流れ橋



流れ橋周辺に広がる浜茶の景観



草庵 松花堂



飛行神社